

第3期川上村まち・ひと・しごと創生 総合戦略



令和7年3月
川上村

目次

第1章 基本的な考え方	1
1. 総合戦略とは	1
2. 戦略の趣旨・目的	2
3. 戦略の位置づけ・検証	2
4. 戦略の実行期間	2
第2章 村の将来像と目標	3
1. 村の将来像	3
2. 戦略の理念と基本目標	3
(1)戦略の理念	3
(2)基本目標	4
第3章 施策体系	5
第4章 施策の展開	6
1. 「やりがい」あふれる活躍の場をつくり、新しい発展のエンジンとなる産業をつくる	6
1-1 未来のイノベーターを育成	6
1-2 一人ひとりの「やる気」を実現する環境整備/新事業の創業	8
1-3 農業の多様性を創出	10
2. 魅力ある観光資源を発信し、村内外の活発な人口交流の仕組みをつくる	13
2-1 観光資源の効率的活用	13
2-2 新しい人の流れを創出	15
3. 生活の不安を解消し、将来も「安心」して子育てできる環境をつくる	16
3-1 農業の安定性を確保	16
3-2 生活の安定性を確保	18
4. コミュニティの「結束」を高め、少数精鋭でも活力ある地域をつくる	20
4-1 コミュニティを活性化	20

第1章 基本的な考え方

1. 総合戦略とは

川上村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「川上村版総合戦略」という。）は、まち・ひと・しごと創生法第10条（※1）に基づいて策定するものです。

川上村版総合戦略の策定にあたっては、国が示す「まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則（※2）」に対応した施策を位置づけていきます。

まち・ひと・しごと創生とは、以下を一体的に推進することをいう。

- まち・・・国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成
- ひと・・・地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保
- しごと・・・地域における魅力ある多様な就業の機会の創出

※1 まち・ひと・しごと創生法

（市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略）

第十条 市町村（特別区を含む。以下この上において同じ。）は、まち・ひと・しごと創生総合戦略（都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略が定められているときは、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略）を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画（次項及び第三校において「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」という。）を定めるよう努めなければならない。

※2 まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

人口減少克服・地方創生を実現するため、5つの政策原則に基づき施策を展開する。

①自立性

地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につながるような施策に取り組む。

②将来性

施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。

③地域性

地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。

④総合性

施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。

⑤結果重視

施策の結果を重視するため、明確なPDCAメカニズムの下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により短期・中期の具体的な数目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

2. 戦略の趣旨・目的

川上村は、これまで夏季でも冷涼な気候を活かし、レタス・白菜などの高原野菜の産地として発展を続けてきました。早い段階から高原野菜に集中し、生産量を増大させ市場シェアを獲得してきたため、農家の平均年収2,500万円超、豊富な後継者、耕作放棄地は皆無と、「奇跡の村」と呼ばれるまでになりました。これも、一見農業に不向きに見える冷涼な気候を逆手にとる「アイデア」で、戦後復興期以来の急速な食の欧米化の「時流」をつかみ、農家同士の「結束」を強め村全体で市場を獲得していった先人の賜です。

しかし、これほどにまで成功と称賛を謳歌してきた川上村であっても、10年、20年先も決して安泰ではないはずです。今後、日本全体での人口減少、TPPやFTAの進展による世界的な産地間競争の拡大、植物工場の台頭、資材費等の高騰、気候変動による野菜生産への影響などの情勢変化が必ず起こるはずです。そのような中で、寡占市場を形成し生産量を拡大することで成功を収めてきた従前の農業構造では限界を迎える時が必ず到来します。

川上村がこれらの大きな時代の変化を乗り越え更に発展していくためには、新しいチャレンジを続け、村の発展を主導していく若者世代を集め、環境や時代の変化をよみながら、村に新しい風をおこしていくことが必要不可欠です。

川上村版総合戦略は、未来を担う若者が将来に希望を持って活躍できる環境を整備することで、持続可能で100年後も発展を続ける村をつくることを目指していきます。

3. 戦略の位置づけ・検証

(1) 位置付け

川上村版総合戦略は、令和5年3月に策定された第7次川上村総合計画をベースとしつつ、特に、村の発展を主導していく若者世代を増やすための施策を、戦略として取りまとめたものです。

(2) 検証

本戦略は、PDCAサイクルを確立し、外部有識者等による検証機関等による意見や効果の検証も踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

4. 戦略の実行期間

令和7年4月から令和12年3月末までの5年間とする。

第2章 村の将来像と目標

1. 村の将来像

未来を担う若者達が将来に希望を持って活躍できる村

2. 戦略の理念と基本目標

上記の将来像を実現するためには、若者達が村での仕事に「やりがい」を持ち、生活に「安心」を感じ、地域のコミュニティの「結束」を強くしていく必要があります。

川上村版総合戦略は、以上の認識に基づき、人口ビジョンも踏まえながら、次のような考え方で策定しました。

(1)戦略の理念

① 人が集まる環境づくり

川上村版総合戦略の主役は村民です。村民自身が、故郷を想い、故郷の発展を主導していけるよう、村民自身が意見やアイデアを具体化していく環境を整えていきます。

村民が活躍できる環境を整えることで、村外からの新しい人の流れを創ることも目指していきます。

② 「温故知新」の精神で新陳代謝を

川上村の発展を支えてきた先人の知恵、経験は村の財産です。これらの財産を後世に伝承するとともに、時代にあった新しい技術・アイデア・制度を積極的に取り入れ、新陳代謝の活性化を図っていきます。

③ 多様性を広げる

川上村版総合戦略に記載された具体的戦略・施策は、村民の選択肢を広げることを第一としています。様々な選択肢を提示していくことで、多様性を広げていきます。

(2)基本目標

① 「やりがい」あふれる活躍の場をつくり、新しい発展のエンジンとなる産業をつくる

多くの若者や女性の生活の場所として川上村を選択してもらうためには、アイデアの実現にチャレンジできる発展性から生まれる、仕事への「やりがい」が必要不可欠です。

未来のイノベーターとなる川上村の子ども達を育てること、基幹産業である農業の多様性を広げること、新しい事業創造を支援するサポート体制を構築し農業以外の産業を産み育てることをとおして、川上村での仕事に「やりがい」を持てる環境をつくっていきます。

② 魅力ある観光資源を発信し、村内外の活発な人口交流の仕組みをつくる

これからの人口減少を克服するためには、帰村を希望する若者が住みやすい環境を整えるほか、村外からの新しい配偶者や移住者を増やしていく必要があります。

豊富な観光資源を活用しながら、まずは川上村を知ってもらい、この地を訪れ、自然の豊かさを体感してもらう機会を提供し、活発な人口交流の環境をつくっていきます。

③ 生活の不安を解消し、将来も「安心」して子育てできる環境をつくる

新しいチャレンジを続けるためには、普段の生活に不安を抱かない生活環境が必要です。特に、収入が安定的に続くこと、子育てに関する不安が解消されることが重要です。

農業の持続可能性を高めること、子育てに関する不安を解消することをとおして、将来も安心して子どもを産み育て生活できる環境をつくっていきます。

④ コミュニティの「結束」を高め、少数精鋭でも活力ある地域をつくる

これまで川上村が発展を続けてきたのは、厳しい自然環境の中で互いに助け合い、切磋琢磨してきた地域コミュニティが持続していたからです。村外からも多くの人々が村を訪れる中、女性の負担に配慮しながら地域コミュニティの利点を強め、結束を強くすることは必要不可欠です。

川上村の財産であるコミュニティの活性化をすすめ、人口減少の中、少数精鋭でも活力ある地域をつくっていきます。

第3章 施策体系

将来像	基本目標/数値目標	重点プロジェクト	施策の方向性	主な施策
未来を担う若者たちが将来に希望を持って活躍できる村	【国の基本目標】 ・稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする 「やりがい」あふれる活躍の場をつくり、 新しい発展のエンジンとなる産業をつくる ■社会増減の均衡（転出者数と転入者数の差：0） ■新規事業創造数：2件	1：未来のイノベーターを育成	未来の可能性を広げる基礎学力の向上 「郷育」の推進	イ 学習指導ボランティアの推進 イ コミュニティスクールの推進 ロ 「考える力」を育成する教育の推進 ハ 故郷を愛する心を育む教育の推進
		2：一人ひとりの「やる気」を実現する 環境整備/新事業の創業	事業創造を多角的にサポート 6次産業を育成/ 女性の活躍の場を創出 新しい雇用の創出	イ 事業創造サポート窓口の設置 イ マルシェかわかみの活性化 ロ 6次産業化マイスターの育成 ハ オリジナル商品の開発促進 イ 企業誘致の態勢整備 ロ 雇用形態の多様化 ハ 6次産業化の基盤整備の検討
		3：農業の多様性を創出	「農」の多様化 「売り方」の多様化 「作り方」の多様化	イ 技術提供のビジネスの可能性検討 イ 輸出戦略の再検討 ロ レタスのブランド化推進 ハ 産地間連携の強化 イ 農業者向けの研修会を開催 ロ 生産工程管理（作業標準化）の推進 ハ 労働平準化に向けたポートフォリオ検討 ニ 新規農作物の可能性検討
	【国の基本目標】 ・地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる 魅力ある観光資源を発信し、村内外の 活発な人口「交流」の仕組みをつくる ■観光入客数：22万人	1：観光資源の効率的活用	観光資源の情報発信 観光客のおもてなし	イ フリークライミングを活かした誘客 ロ 甲武信ユネスコエコパークの発信 イ 村の玄関口の活性化 ロ 毛木場自然歩道の整備
		2：新しい人の流れを創出	都市との関係づくりを発展 移住・定住の促進	イ 関係人口の増加 ロ ふるさと納税の拡充 イ Uターン者の促進 ロ 空き家相談窓口の設置 ハ 空き家バンクの構築
	【国の基本目標】 ・結婚・出産・子育ての希望をかなえる 生活の不安を解消し、将来も「安心」して 子育てできる環境をつくる ■一人当たりの農産物生産額維持	1：農業の安定性を確保	外国人とのWin-Winの関係を構築 野菜生産販売戦略協議会 インフラ整備を通じた産業の活性化	イ 外国人人材に係る連携協議会の再構築 ロ 規制緩和と要求等を強化 イ 川上村野菜生産販売戦略協議会参加団体の増加 イ 道路整備を通じた生産性向上 ロ 災害に強い農地の整備
		2：生活の安定性を確保	健康で生活できる環境の発展 結婚へ踏み出せる支援 子育てしやすい環境の構築	イ 南佐久郡専門職人材バンクの活用 イ 結果を出す婚活事業 ロ 結婚新生活支援 イ 産後ケア事業 ロ 幼少期の子育て支援 ハ 放課後児童クラブの進化 ニ 男性の育児参加促進（男女共同参画）
	【国の基本目標】 ・ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる コミュニティの「結束」を高め、少数精鋭でも活力ある 地域をつくる ■地域コミュニティの満足度：70%	1：コミュニティを活性化	公民館活動の活性化 時代に合ったコミュニティの構築 高齢者のいきがい醸成	イ 住民ニーズに対応した満足度の高い活動の推進 ロ 若妻会・婦人会等の活動を支援 イ 川上村生活改善委員会の活性化 イ おたっしやクラブの活性化 ロ 地域の支えあいを支援

第4章 施策の展開

1. 「やりがい」あふれる活躍の場をつくり、新しい発展のエンジンとなる産業をつくる

未来のイノベーターとなる川上村の子ども達を育てること、基幹産業である農業の多様性を拡げること、新しい事業創造を支援するサポート体制を構築し農業以外の産業を産み育てることをとおして、川上村での仕事に「やりがい」を持てる環境をつくっていきます。

【数値目標】

- 社会増減の均衡(転出者数と転入者数の差:0)
- 新規事業創造:2件

1. 「やりがい」あふれる活躍の場をつくり、新しい発展のエンジンとなる産業をつくる

1-1 未来のイノベーターを育成

川上村には未来を担う多くの子どもたちがいますが、彼等のほとんどが中学校を卒業すると進学のため村を離れてしまいます。

将来の村の発展を担う子どもたちに、村外で様々な経験をし、多様な見識を知り、可能性を拡げ、そして将来の村に帰村してもらえるよう、小中学生の基礎段階から、基礎教育の充実や故郷を学ぶ「郷育」を推進していきます。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標 (KPI)	目標値
◆授業外に1時間以上の学習をする児童生徒の割合	60%
◆進学後、積極的に帰村を希望する生徒の割合(1学年)	50%

●施策の方向性

① 未来の可能性を拡げる基礎学力の向上

【主な施策】

イ：学習指導ボランティアの推進

小中高生の放課後の自主学習への支援として、村内から教師や指導経験がある村民を募集し、生徒の学習相談や質問等に答えるボランティアとして設置していく。その際、放課後の校舎の開放や、児童クラブとの連携も積極的に検討していく。

②「郷育」の推進

【主な施策】

イ：コミュニティスクールの推進

学校の課題と地域の課題をともに共有し、学校と地域が一体となって学校づくりをすすめるコミュニティスクールの推進を検討していく。学校運営だけではなく、生徒の学力向上、人権教育の推進、源流教室、総合教室の活用等カリキュラムについても、行政、学校、親、地域住民全体で検討していく体制を整備し、生徒の将来の可能性を最大限広げていく。

ロ：「考える力」を育成する教育の推進

目的意識とやる気を持ち、努力を続けることができる生徒を育てるため、源流教室や総合学習の時間だけではなく、普段の授業の中から「考える力」を育てる学習を実践していく。

ハ：故郷を愛する心を育む教育の推進

地域の方に協力してもらい源流学習や総合的な学習を充実させるほか、川上村産の農産物を学校給食に利用することを推進し、地産地消を実行しながら児童生徒の故郷を愛する心を育てる。

1-2 一人ひとりの「やる気」を実現する環境整備/新事業の創造

農業を中心として発展してきた川上村ですが、農業以外の新しい産業を育て、農業とともに村を発展させるエンジンとしていくことが必要です。また、特に若者や女性は、自身のアイデアや意見を積極的に実現し、活躍できる場所を必要としています。

村では、雇用創出における企業誘致の推進を図るほか、新事業の創業支援やマルシェかわかみを中心とした6次産業化等をとおして、一人ひとりの村民が、「やる気」を実現し活躍できる環境を整備していきます。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆新規事業創造数	2件

●施策の方向性

① 事業創造を多角的にサポート

【主な施策】

イ：事業創造サポート窓口の設置

村民のアイデアや意見を集め、村の発展の原動力となる新しい事業の創業をサポートする体制を構築する。事業プランの企画サポート、専門家やコーディネーター等とのマッチング、資金調達に関するアドバイス等を行う窓口を設置し、新規事業の実働を支援していく。また、事業所を建設する資金がなくても働けるシェアオフィスの整備も検討し、特に若者や女性の起業を創出するとともに、産業の多様化を図っていく。

② 6次産業を育成/女性の活躍の場を創出

【主な施策】

イ：マルシェかわかみの活性化

「川上村農産物等直売所 森の駅マルシェかわかみ」について、産地直売所としての独立を目指し、安定的な販路の開拓、顧客獲得のための継続的PR、目玉となる商品の開発、話題性のあるイベントの企画等を行い事業の独立採算性の確保を早期に目指していく。また、村外からの観光客の川上観光の拠点に、そして女性やお年寄りの活動やコミュニティの拠点として活性化していくよう、活用方法等について更に検討していく。

ロ：6次産業化マイスターの育成

「川上村農産物等直売所 森の駅マルシェかわかみ」を中心として、顧客獲得のための継続的PR、目玉となる商品の開発、話題性のあるイベントの企画等を中心となって進め、川上村の6次産業化をけん引する人材を「6次産業化マイスター」として育成する。

ハ：オリジナル商品の開発促進

川上村の6次産業化に関する目玉商品の開発を推進する。特に冬期間のマルシェかわかみの目玉商品の開発する必要性は高い。女性を中心として、産業創造サポート窓口とも連携を図りながら、加工品の開発等の検討を進めていく。

③ 新しい雇用の創出

【主な施策】

イ：企業誘致の態勢整備

川上村の自然条件や立地条件、土地利用などの利点を活かして、企業などの誘致をするための態勢の整備を検討する。また、村内での就労希望者向けの住宅の整備を検討し、村内就労の受入れ態勢の向上と、人材の確保を目指す。

ロ：雇用形態の多様化

公共施設等にインターネット環境を整備し、テレワークスタイルを核としたサテライトオフィスや起業家等を誘致し、時間や場所に捉われない在宅就業者等の支援を検討して地元就労者の拡大を図る。

ハ：6次産業化の基盤整備の検討

季節や気候に左右されない商品の開発や収益の多角化などの6次産業化を推進するため加工場の整備を検討する。6次産業化の推進により、年間を通じた収益モデルを確立するとともに、工場における新規の雇用創出を図る。

1-3 農業の多様性を創出

川上村の農業は、スケールメリットを活かした大規模大量生産を軸に日本一の産地として成長してきました。人口減少の進行、価値観の多様化など将来的に不安要素がます中、川上村の農業が更に発展していくためには、農業の「多様化」が不可欠です。

「多様化」の方法は、品目、生産手法、生産時期、販売方法、販売先など様々な可能性があり、川上村では下記の施策の方向性に沿って、農業の多様化を進め、農業に従事している村民の方の「多様化」の選択肢を増やしていきます。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆認定農業者数	480人

●施策の方向性

①「農」の多様化

【主な施策】

イ：技術提供のビジネス化の可能性検討

レタスや白菜等の日本一の産地として培ってきた生産技術・経営技術の提供自体をビジネスとして産業化する可能性を積極的に検討する。特に海外地域での技術提供は、生産物自体の輸出を超えた新たな輸出戦略の一つとなる可能性が高いため、ブランド化戦略と合わせて検討していく。

② 「売り方」の多様化

【主な施策】

イ：輸出戦略の再検討

これまで台湾、香港等を中心に進めてきたレタスの海外輸出について、今までの成果や課題を整理し、レタスが市場等に集中した際の価格低迷対策として、輸出品目、生産方法、輸送方法等を再検討し、輸出戦略を再検討していく。

ロ：レタスのブランド化推進

地理的要件が主であった川上村のレタスのブランド力を高めるため、オリジナル品種の開発や生産手法の標準化等の可能性を検証し、川上村産レタスのブランド化戦略を構築し、ブランド化を推進していく。生産・出荷方法の選択肢を増やすことで農業の多様化を推進する。

ハ：産地間連携の強化

全国に広がるレタスや白菜等の産地間で労働力の融通、輸出事業の拡大、新商品の開発、技術協力等を進めていくことを目指し、産地間の連携協議会の設置など産地間連携強化の手法を検討していく。産地間連携によるネットワークを活用し、政府への外国人人材における要請等も合同で実施していくことを目指す。

③ 「作り方」の多様化

【主な施策】

イ：農業者向けの研修会を開催

企業の経営手法や新技術の普及等を目指し、定期的に農業者向けの研修会を開催する。研修会では外部からの講師を積極的に招聘していく。当研修会を基礎に川上の農業の発展の基礎を築いていく。

ロ：生産工程管理（作業標準化）の推進

個々の農家の経営基盤の強化、栽培技術や生産性の更なる向上を目指し、農業改良普及センター等の関係機関と連携し、IoTを活用した農業の実証事業を展開しながら企業の経営手法や栽培技術の標準化等の普及を推進する。企業の経営手法や栽培技術の標準化の導入により、経営基盤を強化するとともに、生産工程の改善から生産性の向上をめざし、収益性の拡大を目指していく。

ハ：労働平準化に向けたポートフォリオ検討

イと合わせ、夏季に集中している労働の年間を通した平準化の可能性を検討する。生産品目、生産方法、販売先等の多角化と合わせ、年間をとおした収益の確保の可能性を探求し、夏季の労働時間軽減の手法を検討する。

二：新規農作物の可能性検討

今後の気候変動や他産地の状況等も勘案しながら、川上村の気候や風土に適応し、夏季以外でも生産することが可能である新規農作物を積極的に検討し、高原野菜だけに頼らない持続可能な川上農業を模索していく。

2. 魅力ある観光資源を発信し、村内外の活発な人口交流の仕組みをつくる

豊富な観光資源を活用しながら、まずは川上村を知ってもらい、この地を訪れ、自然の豊かさを体感してもらう機会を提供し、活発な人口交流の仕組みをつくっていきます。

【数値目標】

■観光入客数:22万人

2.魅力ある観光資源を発信し、村内外の活発な人口交流の仕組みをつくる

2-1 観光資源の効率的活用

川上村は百名山や千曲川の源流等を有し、山紫水明な村で観光資源に恵まれています。また、昨年6月に、川上村の一部が「甲武信ユネスコエコパーク」に登録されました。

こうした様々な観光資源を活用しながら川上村を訪れる関係人口を増加させ、村の知名度やイメージ向上を図るため、効率的な情報発信や環境整備を推進します。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆観光入客数	22万人

●施策の方向性

① 観光資源の情報発信

【主な施策】

イ：フリークライミングを活かした誘客

古くからフリークライミングの世界的メッカである小川山を村外にPRし、廻り目平キャンプ場の利用者を増やす。インターネットやSNS等を駆使し、フリークライミングに興味のない人達にも情報発信し、観光客の裾野を広げる。また、小川山を活用したフリークライミングの啓蒙イベントを開催する。

ロ：甲武信ユネスコエコパークの発信

甲武信ユネスコエコパークの登録地域は、自然豊かな環境で貴重な植物等も見れるので観光客の増加のために積極的な情報発信をしていく。自然環境の保全と調和した持続可能な産業を目指し、エコパーク産の農産物のブランド化を検討して村外にPRしていく。

② 観光客へのおもてなし

【主な施策】

イ：村の玄関口の活性化

JR信濃川上駅の建替えに合わせて、駅に隣接する村の観光拠点施設を整備する。訪問者の村に対する第一印象を決める重要な場所となるので、地元材を活用した温もりを感じる建物とする。村の概要や観光案内を分かりやすく掲示し、特産物等の販売を検討しながら駅周辺の賑わいを取り戻していく。

ロ：毛木場自然歩道の整備

毛木場付近にはベニバナイチヤクソウやシャクナゲなどの群生地があり、見頃の時期は多くの観光客が訪れる。貴重な直物の保護や安全に観察できる環境を整えるため、新たに自然歩道を整備する。

2-2 新しい人の流れを創出

村内の高校生は卒業後、進学又は就職のため都心等へ転出し、そのまま川上村へ戻らないケースが多数あるのでUターンをしやすい制度をつくります。

友好都市以外の市町村の人にも積極的に川上村へ足を運んでもらう機会を設け、より活発な人口交流の環境をつくり、移住者等を受け入れる仕組みを構築します。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆ふるさと納税件数	300件

●施策の方向性

① 都市との関係づくりを発展

【主な施策】

イ：関係人口の増加

首都圏の都市を対象とした農業体験や農産物を取り扱う物産展を通じて、川上村に積極的に関心を持ち、地域に貢献したいという想いを寄せる関係人口を把握し、地域と持続的なつながりを持つ環境づくりを進める。

ロ：ふるさと納税の拡充

ふるさと納税の品目の多角化や掲載サイトの追加を実施し、全国からの寄付件数の増加を図る。寄付して頂いた人の地域や寄附用途等を分析のうえ、川上村をもっと知ってもらえるようなアプローチを展開し、関係人口の把握や拡大を目指す。また、地域おこし協力隊を活用し村資源の魅力を発掘し、品目の増加を図る。

② 移住・定住の促進

【主な施策】

イ：Uターン者の促進

川上村奨学金の貸与を受け、大学卒業後に川上村に居住する者に対して奨学金を一部免除することを検討する。また、居住地の整備や通勤の補助を行う仕組みを検討してUターン者の増加を目指す。

ロ：空き家相談窓口の設置

村内空き家の利活用・撤去や近隣住民の苦情に対応するため、民間を活用した空き家

相談窓口を設置する。

ハ：空き家バンクの構築

空き家を把握するため、再調査し、併せて意向調査や必要に応じて整備することで新婚者や移住を考える人に利用してもらう。結婚を機に一度村内を離れる人々の抑止に働き、住む人がいない家の代替的な管理にもつながる。

3. 生活の不安を解消し、将来も「安心」して子育てできる環境をつくる

農業の持続可能性を高めること、子育てに関する不安を解消することをとおして、将来も安心して子どもを産み育て生活できる環境をつくっていきます。

【数値目標】

- 一人当たりの農産物生産額維持
- 合計特殊出生率:1.60

3.生活の不安を解消し、将来も「安心」して子育てできる環境をつくる

3-1 農業の安定性を確保

農業の多様性の確保、新事業の創業を進めると同時に、農業が今後も安定して収入を得られる基幹産業たりえるよう、村では農業に係る将来的な不安要素の解消を進めていきます。

外国人技能実習生を始めとする労働力の確保や、安定した農業生産に必要な基盤の整備を進めていきます。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆川上村野菜生産販売戦略協議会参加団体数	10団体

●施策の方向性

① 外国人との Win-Win の関係を構築

【主な施策】

イ：外国人人材に係る連携協議会の再構築

外国人技能実習生等の外国人人材受入機関と行政との連絡窓口である連携協議会の役割を進化させ、トラブル解決ルール、実習生の生活ルール、関係機関の情報共有ルール等の策定を検討していく。また、外国人人材の受入れが円滑に進むよう関係機関の連携を更に強化していく。

ロ：規制緩和要求等を強化

外国人技能実習制度や特定技能の在留資格を利用した外国人の人材確保において、川上村の現状に則した働き方ができる制度への変更や租税上の特例等についての要望を関係機関へ強化していく。

② 農業の安定化・需要増加

【主な施策】

イ：野菜生産販売戦略協議会

川上村の農業の発展のため、川上村の高原野菜の販路の開拓及び川上ブランドの確立のための広報活動に強化のため川上村野菜生産販売戦略協議会を立ち上げ参加団体数を増やし、農業の安定化につなげる。

② インフラ整備を通した産業の活性化

【主な施策】

イ：道路整備を通した生産性向上

川上村の産業の安定化・活性化を図るために既設林道の改良による機能性の向上、新規バイパス道路の整備による産業道路の拡充を進める。インフラ整備を通して、生産・流通コストの低減を図ることで収益性の増大や、地域産業の雇用力の増大、労働安定性の向上を促進させ、もって当村産業の持続可能性を高めていく。

ロ：災害に強い農地の整備

自然災害が発生した場合でも基幹産業である農業を維持・継続していくことが必要である。令和元年東日本台風の経験を生かし、災害に強い農業基盤の整備を推進するほか、農業用施設の保全・管理に係る共同活動、継続的な農業生産活動など、農業・農村の有する、多面的機能維持・向上を目指していく。

3-2 生活の安定性を確保

村民が安心して結婚し、子どもを出産し、育てられる環境を整えることも必要不可欠な課題です。そのために、安心して子供を産み育てられる環境づくりや子育てにかかる経済的負担の軽減など、結婚、妊娠、出産、子育てを切れ目なく支援していきます。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆健康診断の受診率	55%
◆役場主催でイベントでのカップル成立数	10組
◆子育て環境としての満足度	60%
◆子育て支援センター利用者数（年間）	4,000人
◆児童クラブ利用者数（年間）	5,000人

●施策の方向性

① 健康で生活できる環境の発展

【主な施策】

イ：南佐久郡専門職人材バンクの活用

南佐久郡専門職人材バンクを活用して、地域内の看護師人材の相互交流を活性化し、看護師の能力向上の機会を確保していくとともに、採用活動も一元化することで安定的な看護師の確保を目指す。将来的には、看護師以外の専門職人材の確保についても同様に検討を開始する。

② 結婚へ踏み出せる支援

【主な施策】

イ：結果を出す婚活事業

婚活事業については、個別紹介とイベントの両面から実施していく。個別紹介は長野県のマッチングシステムを活用し、村民への周知や利用促進を図る。婚活イベントは、ターゲットとなる村外の方へ川上村をより知ってもらうためのPR方法、魅力的な婚活プログラム、参加者へのマナー講習、結婚後の生活がイメージしやすい説明等を総合的に企画し、成婚率が高く、また川上村に訪れたいと思えるものを開催していく。

ロ：結婚新生活支援

新婚世帯に対し、新生活のスタートに係る費用（引っ越し費用等）の支援を**実施**する。また、新婚住宅の建設、空き家の整備を実施することによって、結婚時に大きな問題となる居住の確保を支援していく。

③ 子育てしやすい環境の構築

【主な施策】

イ：産後ケア事業

産後の不安定な時期を支援するため、身体面、精神面、社会面において様々なサポートが必要な妊婦・新生児又は乳幼児に対して宿泊型の支援を行っていく。

ロ：幼少期の子育て支援

川上村公式ラインを活用して、子育て中に必要な情報やイベント開催等のお知らせを迅速に発信していく。子育て支援センターは、子育てに関する相談窓口となり、母親同士の活発な交流拠点として本村の実情に応じた子育て支援サービスを充実させていく。

ハ：放課後児童クラブの進化

農繁期の児童保育機能も兼ねている放課後児童クラブについて、開設時間・場所等について住民の要望を聞きながら、利用範囲を4年生からとすることなど、利用者がより利用しやすくなるよう運営方法等を検討していく。更に学習支援ボランティア等と連携し、児童の学習相談等にも対応し、基礎学力の向上に寄与していくことを目指す。

ニ：男性の育児参加促進（男女共同参画）

男性の育児参加割合が高い家庭は、川上村の生活満足度も高く、総じて子どもの数も多いことに鑑み、男性の育児参加促進のため男女共同参画に関する啓発を続けるとともに、子どもの頃から、継続して子育て・育児・家事に対する男性参加について啓発と普及を図っていく。

4. コミュニティの「結束」を高め、少数精鋭でも活力ある地域をつくる

川上村の財産であるコミュニティの活性化をすすめ、人口減少の中、少数精鋭でも活力ある地域をつくっていきます。

【数値目標】

■地域コミュニティの満足度：70%

4. コミュニティの「結束」を高め、少数精鋭でも活力ある地域をつくる

4-1 コミュニティを活性化

コミュニティの結束力を高めるためには、「共通体験」の中から住民同士のつながりを強くすることが必要です。

川上村では、他地域にはない強固なコミュニティが残り、このコミュニティが村を支え、発展を促す原動力となってきました。村では、既に存在するコミュニティの活動を活性化し、これまで以上に結束力を強めていくとともに、新たに村外から訪れる方々のコミュニティへの参加を促していきます。

●重要業績評価指標

重要業績評価指標（KPI）	目標値
◆公民館活動の参加者数（年間）	3,000人
◆新しく嫁いだ女性のコミュニティ活動への参加割合	80%

●施策の方向性

① 公民館活動の活性化

【主な施策】

イ：住民ニーズに対応した満足度の高い活動の推進

地域住民の重要なコミュニティ活動の拠点である公民館活動の活性化を図る。住民ニーズに沿った幅広いプログラムを実現するとともに、成果発表等も積極的に展開していく。また、若年層や男性の参加率を向上させることを目指し、プログラムの多角化を進めていく。

ロ：若妻会・婦人会等の活動を支援

村外から移住してくる方々が村のコミュニティにいち早く溶け込めるよう、若妻会、婦人会、青年団等の活動や入会方法等について周知し、参加率を高めていく。また活動内容についても、各会員のニーズを踏まえた活動を推進し、各団体の活動が活性化するようにサポートしていく。

② 時代に合ったコミュニティの構築

【主な施策】

イ：川上村生活改善委員会の活性化

村独自の文化や風習のうち、時代の変化により改善が必要な風習等もある。川上村生活改善委員会の決定により、冠婚葬祭の簡素化等の指導を行っているが、村民間で一般化が図られていないため、川上村生活改善委員会の決定の普及と徹底を図っていく。また、現行決定以外についても生活慣習上改善可能なものについては積極的に改善し、住みよい村を作っていく。

③ 高齢者のいきがい醸成

【主な施策】

イ：おたっしゃクラブの活性化

高齢者の生きがいづくり活動を支援し、趣味活動、交流事業、地域貢献活動の更なる充実を図る。おたっしゃクラブを核とした住民参加型サロンの地域展開を検討し、介護予防機能と高齢者のいきがい醸成を図り、村民の満足度の高い福祉サービス構築を目指す。

ロ：地域の支えあいを支援

専門職の関わり強化や住民の共同による介護者の支援、地域づくりの中心となる住民や生活支援コーディネーターと一緒に地域の支えあいを推進していく。